

5月の金融政策、政治・経済イベント

4月の金融市場では、前半にかけて、シリアや北朝鮮などにおける地政学リスクや、フランス大統領選を控えての警戒感などが重石となり、世界的に株式市場が下落基調となりました。しかし、23日に行なわれたフランス大統領選の第1回投票で、中道系のマクロン氏と極右政党のルペン氏が決選投票に進む波乱のない結果となったことから、欧州政治を巡る先行き不透明感が後退し、株式市場は欧米を中心に大きく反発しました。

5月は、米金融政策の先行きを見通す上で、2～3日に開かれるFOMC(米連邦公開市場委員会)や、24日に公表されるFOMC議事録が焦点になると考えられます。市場では、今回の会合での追加利上げは見送られ、次回6月に利上げが実施されるとの見方が有力となっています。また、前回の3月会合の議事録では、メンバーの多くが年内にFRB(米連邦準備制度理事会)の保有資産の縮小に踏み切ることが適切との考えを示していたことが明らかになりました。そのため、今回のFOMCでは、資産縮小の時期や手法などについて、どこまで踏み込んだ議論がなされるかに注目が集まります。

欧州では、引き続きフランス大統領選に注目が集まります。7日には、マクロン氏とルペン氏の両候補による決選投票が行なわれる予定で、世論調査ではマクロン氏が優勢とされています。欧州では、6月以降も英国の総選挙など、政治的なイベントが相次ぐ予定ではあるものの、フランス大統領選で親EU(欧州連合)派であるマクロン氏が当選すれば、欧州の政治情勢の安定化に、プラスに働くと考えられます。

また、日本では、18日に1-3月期GDPの速報値が発表されます。堅調な海外景気を背景とした輸出の拡大や、人手不足を背景とした賃上げに伴う個人消費の回復が期待されており、市場では、実質GDP成長率が前期比で5四半期連続のプラスになると予想されています。

5月の注目される金融政策および政治・経済イベント

5月	予定	
1日(月)	■ 米国、4月のISM製造業景況指数	
2日(火)	● 米国、FOMC(連邦公開市場委員会、～3日)、● オーストラリア、金融政策決定会合	
3日(水)	■ ユーロ圏、1-3月期GDP(速報値)	
5日(金)	■ 米国、4月の雇用統計	
7日(日)	■ フランス、大統領選の決選投票	● 金融政策関連 ■ 政治・経済関連
10日(水)	● 英国、金融政策委員会(～11日)	
11日(木)	● ニュージーランド、金融政策決定会合、 ■ G7(主要7カ国)財務相・中央銀行総裁会議(～13日、イタリア・バーリ)	
18日(木)	■ 日本、1-3月期GDP(速報値)	
24日(水)	● 米国、5月のFOMC議事録の公表	
25日(木)	■ OPEC(石油輸出国機構)総会(原油の協調減産の延長について協議される予定)	
26日(金)	■ G7首脳会議(～27日、イタリア・タオルミーナ)	
30日(火)	● ブラジル、金融政策決定会合(～31日)	
31日(水)	■ 中国、5月の製造業PMI	
月内	■ 米国、正式な予算教書が発表される予定	

(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。スケジュールは予告なしに変更される可能性があります。)
※上記は過去のものおよび予定であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。